

21世紀への遺産

City's Culture



入母屋造・妻入・銅板葺からなる豪華な拝殿



神事芸能などが盛んに行われていた舞殿

時を越えて生き続ける見えない力がある。
ふるさとの文化。
いま、次代へ、確かに伝えるもの...

外町町人の総鎮守 日吉八幡神社

外

町の守り神として、八橋の山王さんともいわれ、町人たちが親しまれてきた日吉八幡神社。

日吉八幡神社は、平安時代に秋田
市郊外の笹岡(今の外旭川)にまつられ
たのが始まりと伝えられ、鎌倉時代
には上新城に移されました。

さらに天正十七年(一五八九)、檜山
の安東実季が土崎の安東道季との湊
合戦で勝利をおさめ、日吉八幡神社



神社境内に建つ県内唯一の三重塔



総けやき造りの随神門

を守護神として飯島に遷座。その後、
初代秋田藩主となった佐竹義宣も日吉
八幡神社を敬い、元和元年(一六一五)、
「政治の安定と外町町人の発展」を象
徴する神様として、八橋の狐森(今の
寺内油田)に移しました。この建物は
明和七年(一七七〇)の大火で類焼し、
その後、現在地(八橋本町)に再建され
ました。現在の拝殿は安永七年(一七
七八)、本殿は寛政九年(一七九七)に建
てられたものです。

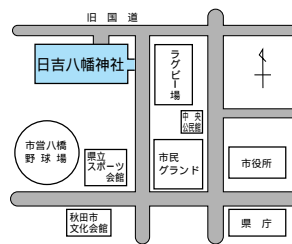
秋田県指定有形文化財(建造物)十六
件のなかでも日吉八幡神社は、本殿・
拝殿・舞殿・随神門の四棟のほか三重
塔・青銅鳥居などを有し、「歴史の宝
庫」ともいわれています。また、拝殿
正面と内陣の彫刻は、精巧を極め、安
藤和風が秋田の日光廟と激賞したほど
豪華なつくりとなっています。

外町を練り歩く 伝統の御差鉾行列

藩政時代は、今の旭川を境に、東側
は内町と呼ばれる侍町、西側は外町と
呼ばれる町人の町となっていました。
日吉八幡神社は、商人や職人の住む外
町の守り神となってきた神社でもあり
ます。しかし外町から日吉八幡神社は
遠かったため、外町の人たちは、御輿
をかついで町を練り歩く御差鉾行列を
行い、自宅の前で商売繁盛や家内安全
などを祈願してきました。この御差鉾
行列と稚児行列は、今も毎年行われ
ています。

今年は九月十四日(木)午後六時に神社
を御差鉾行列が出発し、翌十五日(金)は、
午前十時に御輿渡御と稚児行列が神社
を出発し、旧外町を練り歩きます。ま
た、日吉八幡神社に関するホームページ
もどうぞご覧ください。

<http://www3.ocn.ne.jp/~sirou/>



日吉八幡神社

日吉八幡神社 ☎(862)3287
八橋本町一丁目4-1。境内
には本殿、拝殿、舞殿、随
神門のほか、句碑も数多く
建てられています。